

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

歯学部

部局長名：

浅海 淳一

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>1) 診療参加型臨床教育の充実 (背景:全国的に展開される「歯学教育の改善・充実」に対応するため) 達成目標と実習項目を明確化する。学外医療機関から招聘する臨床教授、臨床准教授、臨床講師による臨床教育体制を推進する。特に、周術期管理や在宅介護現場で活躍できる歯科医師を育てることができる教育システムの整備を推進する。</p> <p>2) 国際的な分野別認証評価に向けての準備 (背景:国際的な質の担保を評価するための歯学教育における分野別認証評価の準備のため) 高度専門人材の育成に向けた歯学教育の質を保证するために、臨床実習担当教員の資格審査の厳格化を行い、国際分野別認証評価への対応を図る。</p> <p>3) 60分授業とクォーター制を組み合わせたカリキュラム改革 (背景:大学の組織目標を推進するため) 編入学制度の改革により生ずる新しい教育ニーズにも対応し、さらに推進・改良する。</p> <p>4) シミュレーションシステムやIT活用による効率的な教学システムを構築 (背景:教育システムの効率化のため) シミュレーションシステムの改修や学生証(ICカード)を用いた電子出席管理システム・電子歯学部棟入退出システムなどを推進する。</p> <p>5) 歯学教育改革・国際交流の推進 (背景:世界的に推進されている歯学教育改革や国際交流に対応するため) 平成27年度に開設したURAとしての機能を持つ歯学教育・国際交流推進センターで、機動的に教育改革や国際交流を推進する。大学間・部局間交流協定の締結を進め、歯学部生の短期留学制度の充実を図る。</p>	<p>1) ●学外医療機関から臨床教授15人、臨床准教授9人、臨床講師8人を招聘し、周術期管理や在宅介護現場で活躍できる歯科医師を育てる教育システムを整備した。 ●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムにより、「講義シリーズ1(生活習慣病と口腔)」「講義シリーズ2(急性期医療)」「講義シリーズ3(在宅介護医療)」を開講した。全連携大学及び東京大学大学院等から電子授業システム129コンテンツを確保し、連携11大学間での共有を進めた。 ●3年次生を対象に「介護施設を用いたPBL演習」を開講し、在宅介護現場で活躍できる人材の育成教育を開始した。また、5-6年次の診療参加型臨床実習と平行して「高度医療支援・周術期口腔機能管理実習」「在宅介護歯科医療実習」を新設し、周術期管理や在宅介護現場で活躍できる歯科医師育成教育の「見える化」を図った。</p> <p>2) ●文部科学省補助金「歯学教育認証制度等の実施に関する調査研究」事業の「歯学教育認証評価トライアル」を全国29歯科大学・歯学部の中で6番目に受審した。臨床実習の指導教員の資格を設定した。資格はFDに毎年参加することが要件の一つで、毎年更新とし、臨床実習教育の「質」を確保できるようにした。</p> <p>3) ●60分授業・4学期制を完全導入し、学生に対し学年別説明会で周知した。教員にはFD講演会を開催し意識の浸透を図った。「歯学部教育点検・評価・改善委員会」を新設し、定期的にカリキュラム上の問題発見と課題解決を続ける体制を整えた。 ●60分授業の教育効果の実質化のため、アカデミック・ライティング科目の先駆けとなる「自己表現力演習」、TBLの手法を導入した2学年合同プロフェッショナルナリズム教育科目等を新設、アクティブラーニング教育を強化した。教務委員会にもアクティブラーニング検討部会を創設した。 ●編入年次変更により、専門教育科目の一部を2年次に前倒した。1年次専門教育科目「早期見学実習」への参加も可能とし、3年次編入では満たしきれなかった教育ニーズを満たした。</p> <p>4) ●企業と共同開発した在宅歯科診療教育用シミュレータを用いた「シミュレーション実習」を新設し、超高齢社会に対応した歯科医師を育成するための在宅・訪問歯科診療実習を補完する教育の充実を図った。各教育研究分野に対して鹿田地区のシミュレーション施設を活用したシミュレータ教育を推奨し、効率的な教育の実施を推進した。 ●ネットワーク環境を整備・拡張。電子授業シリーズ等のICTを用いた学習をより円滑に行えるよう整備した。アクティブラーニングに威力を発揮する現有ICTツールの活用を促すFD講演会を開催し、普及に努めた。</p> <p>5) ●学生14名を派遣。来年度の派遣実施学年の拡充、単位認定の適正化に向けた規程改正、新科目の創設、シラバスの作成を行った。7カ国8校の連携校から26名の歯学部生を受入れ、新たにオハイオ州立大学(米国)及びブリティッシュコロンビア大学(カナダ)との部局間交流協定を締結、インドネシア大学(インドネシア)との協定を大学間に格上げした。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-2 大学全体への貢献
<p>1) 国家試験合格率 2) 研修医マッチング率 3) 交流協定数および留学生数</p>	<p>●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムを推進した。 ●60分授業、4学期制を完全導入した。 ●「歯学教育認証評価トライアル」を受審し、臨床実習教育の「質」を確保した。 ●14名の学生を海外派遣、7カ国8校の連携校から26名の歯学部生を受入れ、新たに3協定を結んだ。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>1) 国家試験合格率 2) 研修医マッチング率 3) 交流協定数および留学生数</p>	<p>●平成29年国家試験合格率(新卒)86.8%、平成28年度研修歯科医マッチング率:100%。 ●部局間交流協定:2校、大学間交流協定:1校締結。</p>
②研究領域	自己評価
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>1) 歯学教育に関する調査・研究の推進 (背景:超高齢社会における歯科に対するニーズの変化(歯学教育や研究を、有病者医療や在宅介護現場に適應させるため)) 周術期管理やがん支持療法国際学会を岡山で主管する。</p> <p>2) 研究実施体制等の整備 (背景:外部資金獲得を維持する) 歯学系構成員による文部科学省科学研究費の申請および採択率は高く、特に申請数については上限に近づいている。これらの数値を維持しながら同一人による複数種目の申請を目指し、採択率のさらなる向上を図る。</p> <p>3) 歯学部先端領域研究センターおよび共同利用施設の充実 (共同研究に関する環境・資源・整備等の提供) 「歯学部先端領域研究センター」および歯学部共同利用施設の利便性の向上を図り、研究業績の向上を目指す。また、若手歯学系教員が主催する研究会である「BioForum」(平成25年から)、歯学部先端領域研究センターが主催するARCOCSセミナー(平成27年から)を継続し、学内外との共同研究の促進を図る。</p> <p>4) その他の研究活動は、研究科(歯学系)に準ずる。</p>	<p>1) ●がん支持療法の国際学会MASCC/ISOOと連携し、国内において周術期管理・がん口腔支持療法の学会を岡山大学病院医療支援歯科治療部が主導し設立した。</p> <p>2) ●文部科学省科学研究費の申請および採択率に関して、歯学系教員による文部科学省科学研究費の申請数112件(昨年度102件)、新規採択率40.4%、取得者率71.2%と高い水準を維持した。</p> <p>3) ●歯学部共同利用施設の利便性の向上を図るため、形態系共同研究室と機能系共同研究室を有機的に統合した。また、一部の実験スペースを短期貸出制とし、セミナールームをホームページから予約出来るようにした。ARCOCSセミナーは毎月1回計11回、BioForumを年2回開催し分野を超えた。また学外との共同研究の活性化を図った。スタッフ、運営委員会、業績(英文編者1冊、学術論文53報(内英文36報))等、詳細は、ホームページに掲載している。(http://www.dent.okayama-u.ac.jp/arcoocs/bioforum.html)また、歯学研究へのearly exposureとして学部学生を2名課外で受け入れ、研究指導し、共同研究の一環としてフランス(西ポルターニュ大学)へ短期研究留学させた。さらに、小学生~高校生への研究啓蒙活動として6年連続日本学術振興会の支援を受けて「ひらめきときめきサイエンス」を主催した。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-2 大学全体への貢献
<p>1) 科学研究費の新規採択率 2) 取得者率</p>	<p>●がん支持療法の国際学会MASCC/ISOOと連携し、国内において周術期管理・がん口腔支持療法の学会を岡山大学病院医療支援歯科治療部が主導し設立し、社会貢献した。 ●文部科学省科学研究費の申請および採択率に関して、歯学系教員による文部科学省科学研究費の申請数112件(昨年度102件)、新規採択率40.4%、取得者率71.2%と高い水準を維持し、研究実施体制等の整備に貢献した。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<p>1) 科学研究費の新規採択率 2) 取得者率</p>	<p>●文部科学省科学研究費の申請および採択率に関して、歯学系教員による文部科学省科学研究費の申請数112件(昨年度102件)、新規採択率40.4%、取得者率71.2%。</p>

<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>③-1 目標</p> <p>1) 社会貢献の体制を確立する (背景:生涯教育と情報発信の基地としての役割を強化するため)病院や研究科との連携を強化し社会貢献を効率良く実施するため、岡山歯学会、同窓会、関連組織(医療関係者等)と広く意見交換を行い、情報発信ができる体制を確立する。</p> <p>2) 地域保健活動の推進 (背景:予防医学の立場から地域保健活動が求められているため)保健所等の地域行政機関と協力して、情報収集、情報提供を通して地域住民に貢献する。口腔がん検診を実施する。</p> <p>3) 国際交流の推進 (背景:世界的に進められているグローバル化に対応するため)協定の締結を推進し、またすでに締結されている機関との交流をさらに活性化させる。</p> <p>4) 地域医療については、大学病院に準ずる。</p>	<p>自己評価</p> <p>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>1) ●高度医療支援・周術期口腔機能管理実習を必修科目として開設し、新たな人材の育成を進めた。 ●厚生労働省造血幹細胞移植医療体制整備事業造血幹細胞移植推進拠点病院の認定に伴う事業の一環として造血幹細胞移植における口腔内管理の人材育成、教育、研究の充実を行った。 ●岡山県歯科医師会と定期連絡体制を構築、糖尿病ネットワークを整備した。現在、周術期歯科管理体制の整備に取り組んでいる。 ●岡山病院歯科勉強会と『陽子線治療と口腔管理』の講演会を共催、津山中央病院陽子線治療センターの情報を発信した。</p> <p>2) ●岡山市多職種連携等調査研究事業の委託を受け、がん患者等への支持的な歯科医療連携を促進する連絡会議を設置、地域連携事例集を市内歯科医療機関に配布した。 ●大学病院主催の歯と口の健康週間イベントと岡山県歯科医師会と歯科衛生士会との共催(岡山県後援)の『いい歯の日』イベントを開催、マスコミ取材も受けた。 ●市民が病状等を手軽に検査できる『歯と口のトラブルナビ』を病院HPIに開設、マスコミで報道された。 ●倉敷市、真庭市等県内複数の地域で口腔がん検診を実施した。</p> <p>3) ●学生14名を8か国に派遣した。7か国から歯学部生を26名招き、ウエルカム事業、英語授業シリーズ(2単位)、吉備津神社等の見学旅行を実施した。 ●学生の交流事業はJASSO奨学金の支援により行い、来年度も、派遣、受入共に継続して採択された。教員レベルの国際交流事業は、JSTさくらサイエンスプランに2件採択、ベトナム北部2大学とインドネシアから各々2名(計6名)の歯学部教員を招聘、共同研究を行った。 ●ミャンマー国マンダレー歯科大から臨床研修医として歯科医師1名を招聘、口腔外科、歯科麻酔の研修を行った。同国から歯科医師を2名招聘、口腔がんの細胞診を中心に研修を行った。同国の口腔保健活動で口腔外科医2名が口腔がん検診を実施した。</p> <p>③-2 大学全体への貢献</p> <p>●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」を全国展開した。 ●岡山市多職種連携等調査研究事業の委託を受け、がん患者等への支持的な歯科医療連携を促進するために連絡会議を設置し、地域連携を図った。 ●短期留学制度を推進し、海外派遣と受入に貢献した。 ●大学が推進するミャンマーとの交流を活発に進めた。 ●口腔保健啓蒙活動や口腔がん検診を行い、岡山大学の大きな役割としての地域貢献に努めた。</p>
<p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1) 診療報酬請求総額 2) 患者のべ総数 3) 部局間、大学間交流協定の締結数 4) 交換留学生の数</p>	<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>1) 診療報酬請求総額1,176,707,645円[11校中3位] 2) 患者のべ総数162,009人[11校中6位] 3) 部局間交流協定:2校、大学間交流協定:1校 4) 派遣:14名、受入:26名</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>教育、研究、社会貢献すべてにおいてよい状況を保っている。教育においては、60分授業と4学期制に十分適応し、大きなカリキュラムの改革を行っている。臨床及びシミュレーションを利用した診療参加型臨床教育の充実を行い、「歯学教育認証評価トライアル」を受審し、高評価を受けている(これまで、29校の中で7校が受審)。ネットワーク環境を利用した電子授業シリーズなどのICTを用いた学習をより円滑に行えるよう環境整備を行った。海外派遣及び受入れも順調に増加させ、国際化を進めている。国家試験合格率、研修医のマッチング率も良好である。研究領域では、周術期管理・がん口腔支持療法学会を岡山大学病院医療支援歯科治療部が主導し設立した。文部科学省科学研究費の申請及び採択率も高い水準を維持している。英文ISI掲載論文数、総被引用度数、1論文当たり相対被引用度数、国際共著率も1~3位を占めている。歯学部先端領域研究センター活動も良好である。社会貢献では、岡山市多職種連携等調査研究事業の委託を受け、がん患者等への支持的な歯科医療連携を促進するために連絡会議を設置し、地域連携を図った。4学期制を利用した研究室配属と短期留学制度を推進し、海外派遣と受入れに貢献した。大学が推進するミャンマーとの交流を活発に進めるなど国際交流を推進した。口腔保健啓蒙活動や口腔がん検診を行い、岡山大学の大きな役割としての地域貢献に努めた。国際交流も部局間協定21校、大学間協定8校と多くの協定の元、活発な交流を進めている。診療報酬請求総額も国立大学病院の中で3位を保った。</p>	